

にほんやっかだいがく

日本薬科大学

1 講義名・定員など

(1) 開放講義

科目名	担当教員	曜日	時限	定員	備考
社会・集団と健康 (薬学科3年)	教授 樋口敏幸	火	2	50名 程度	1限 9:15~10:45 2限 11:00~12:30 昼休 12:30~13:30 3限 13:30~15:00 4限 15:15~16:45 5限 17:00~18:30
免疫学 (薬学科2年)	教授 渡邊峰雄	火	2		
応用化粧品論 (医療ビジネス薬科学科2年)	教授 白土真紀	火	2		
有機化合物としての医薬Ⅰ (薬学科1年)	准教授 高山博之	火	2		
生薬・薬膳論 (医学科栄養3年)	講師 糸数七重	火	2		
漢方処方学* (薬学科4年)	講師 糸数七重	水	2		
症候と臨床検査 (薬学科3年)	教授 勝山 壮 講師 千葉輝正	木	1		
スポーツマネジメント学 (医療ビジネス薬科学科3年)	講師 松永修司	木	1		
生体の構造と機能 (薬学科1年)	教授 前田智司	木	1		
衛生科学 (医療ビジネス薬科学科2年)	講師 今井菜美	木	2		
薬理Ⅱ (薬学科2年)	教授 櫻田 誓 講師 千葉輝正	木	2		
疾病と治療薬 (医療ビジネス薬科学科3年)	教授 井上裕子	木	2		
ニュースポーツⅡ (医療ビジネス薬科学科1年)	教授 縣 右門 教授 村橋 毅	木	3・4		
生命をミクロに理解する (医療ビジネス薬科学科1年)	准教授 岡田直子	金	2		
臨床栄養学 (医療ビジネス薬科学科3年)	教授 高橋 徹	金	1		

- 授業の都合上、上記曜日・時限が変更となる可能性があります。
- *印の講義は8～10回、それ以外の講義は14～16回を予定しています。
- お申込の際は、「5 各講義の概要及び担当教員」をご参考にしてください。

(2) 講義受講にあたっての注意事項

- 担当教員は都合により変更になる場合があります。
- 曜日・時間・講義室が変則的になる場合があります。その際は追ってご連絡します。
- 講義で使用する教科書は追ってお知らせしますので、書店やインターネット等を通じて各自でご購入ください。
- 本学はお茶の水にもキャンパスがあります。2つのキャンパスで同時に授業を行うため、講義によってはオンライン講義（オンデマンド配信）になる可能性があります。その際はご自宅での受講または本学での教室での受講となりますので、インターネットに接続できる端末・インターネット通信環境が必要となります。

2 受講料・受講の申込み

(1) 受講料 1科目（半期）につき10,000円

※教科書等の教材は自己負担によりご用意いただきます。

(2) 申込期限 令和7年8月19日（火）必着

(3) 申込方法

以下の事項をもれなくご記入の上、下記お問合せ先に郵便はがき、FAX、またはメールでお申込みください。

- 住所
- 氏名(フリガナ)
- 性別
- 年齢（令和7年4月1日現在）
- 電話番号
- メールアドレス
- 受講希望講義・担当教員名（重複のない限り何科目でも可）

なお、スマートフォンあるいはパソコンを利用した Forms(受講申込フォーム)によるお申込みも可能です。下記 QR コードを読み込むか URL を入力してお申込みください。

【大学開放授業講座 令和7年度後期日本薬科大学受講申込フォーム】



<https://forms.office.com/r/9t4z9UPk32>

5 各講義の概要及び担当教員

<p>社会・集団と健康 【生活・環境】 (教授 樋口敏幸)</p>	<p>健康と疾病の概念、恒常性維持のための生体防御機構、人間集団の健康状態を把握するための保健統計(年齢3区分別人口、出生率、死亡率、疾病別死亡率など)、平均余命、平均寿命、健康寿命、疾病の原因と対策を考える疫学、感染症とその予防対策、生活習慣病の疫学と予防対策、職業病とその予防のための労働衛生、母子保健、学校保健などについて学び、社会における集団の健康と疾病の現状とその影響要因を理解し、疾病の予防に関する基礎知識を習得します。さらに、大学周辺地域における健康管理や疾病予防・治療への取り組み等の公衆衛生活動を紹介します。</p>
<p>漢方処方学 【漢方・健康】 (講師 糸数七重)</p>	<p>漢方処方学は古典的な観点と現代医学的観点のいずれか、もしくは両方に基づき処方されます。薬剤師として、医師の処方意図を理解したり、また、自ら処方する場合には、両方の考え方を理解しておく必要があります。本講義では、前半では日本薬局方に収載されている頻用処方に関する古典的観点からの解説を、後半では実際に漢方処方が頻用される高齢者医療を題材として、臨床における漢方処方の使用方法の考え方に関する解説を行います。</p>
<p>生薬・薬膳論 【漢方・健康】 (講師 糸数七重)</p>	<p>「生薬」「食薬区分」に関する法的な定義を解説します。まず、薬膳とは何か、日本で薬膳がどのように捉えられているかについて概説し、そのうえで、日本における薬膳の実態、日本以外の伝統的東洋医学(中医学・韓医学・アーユルヴェーダ)を有する文化圏・それ以外の文化圏における「薬膳」および「薬膳的食べ方」もしくは「身体によいとされる食べ方」の実際について、招聘講師による講義や実習も交え、具体例を挙げながら紹介します。外部講師の都合により、講義の順序や日程が変更となる可能性がありますのでご了承下さい。</p>
<p>衛生科学 【生活・環境】 (講師 今井菜美)</p>	<p>食品の製造、管理、保存等が不適切であると様々な疾病を罹患するため、食の安全性を確保することは健康な生活を営む上で重要です。本講義では、食品の変質とその防止策、食品添加物、遺伝子組換え食品など様々な食品の用途や食品衛生に関する法的規制等を学びます。さらに、食品由来の発がん物質、食中毒の原因とその予防法等を学び、安全な食生活を実践するための基礎知識の習得を目指します。</p>
<p>薬理Ⅱ 【健康等】 (教授 櫻田 誓) (講師 千葉輝正)</p>	<p>「薬理Ⅱ」では、人体の構造・機能およびその調節に関する基本的な事項を基盤として、病気に関連する治療薬の薬理作用(作用点、作用機序、主な副作用)に関する知識の習得を目指します。この科目は、機能形態学および病態生理学の知識を基礎としています。講義は教科書および配布資料に沿って進めていきますので、毎回、教科書と講義資料をご持参ください。また、該当箇所については、事前に予習のうえ、ご参加いただければと思います。</p>
<p>生命をミクロに理解する 【健康等】 (准教授 岡田直子)</p>	<p>この講義では、「人間のからだはどのようにして体温や血圧を一定に保っているの?」「遺伝子って何をしているの?」といった素朴な疑問に、分子レベルから迫ります。自律神経やホルモンのように無意識に働いてくれる体内の仕組みが、どのように私たちのからだを支えているのかを学びます。また、DNAに記録された情報が、どのように読み取られ、からだをつくる材料であるタンパク質になるのかという遺伝の基本も、わかりやすく解説します。</p>

<p>症候と臨床検査 【健康等】 (教授 勝山 壮) (講師 千葉輝正)</p>	<p>身体の病的変化を病態生理学的に理解する為に、代表的な症候（心臓、血管、血液、呼吸器、消化器など）を臨床検査値に関する基本的知識を習得出来るように学習します。また、実際の症例課題に対し、臨床検査値と薬物療法に関するレポート作成も行います。</p>
<p>疾病と治療薬 【健康等】 (教授 井上裕子)</p>	<p>代表的な疾患の病気の成り立ちを理解し、その原因や進行メカニズムを学びます。各疾患に対しでどの薬物を使用するかについて学んでいきます。多数の薬物に遭遇しても知識を応用出来るような基盤を与えることを目的とし、疾病と治療薬では、2類および3類に分類される一般用医薬品薬について、代表的な配合成分等の働き、主な副作用、相互作用、受診勧奨等について解説します。</p>
<p>免疫学 【健康等】 (教授 渡邊峰雄)</p>	<p>普段の生活環境において健康でいられるのは、我々を侵食する病原微生物に対する防御機構、すなわち免疫機能が適切に機能しているためです。健康を保つためには免疫の機能状態が適切に維持される必要があります、免疫が過度に亢進したり、抑制されたりすると様々な疾患が発生します。この講義では、免疫機能の基本的な知識から免疫機能関連疾患の発症機序に至るまで幅広い知識を学びます。</p>
<p>臨床栄養学 【生活・健康等】 (教授 高橋 徹)</p>	<p>臨床栄養学という言葉は、病気と栄養素との関係ばかりでなく、栄養管理、各疾病に関わる献立の作成・展開および調理までを含む大きな応用分野を示す言葉になります。本講義では、疾病と栄養素の関係のみに焦点を絞ります。自身の食事を振り返り、将来の健康を展望出来ることを目指します。日本人の食事摂取基準についても学習します。議論をすることで科学的思考力を身に付けられることを目指し、授業内に小テストを行います。</p>
<p>応用化粧品論 【生活・健康等】 (教授 白土真紀)</p>	<p>化粧品は人々の日常生活と深く関わっており、さまざまな目的で使用されています。その作用は緩やかであることが規定されており、医薬品とは本質的に異なります。しかし、化粧品を支える学問領域は、有機化学、物理化学、無機化学といった基礎化学にとどまらず、生化学、薬理学、皮膚科学、さらには心理学にまでおよび、非常に幅広く多岐にわたります。本講義では、化粧品に対する科学的理解を深めることを目的とし、各種化粧品の特徴や使用法を詳細に解説するとともに、化粧品に関連する具体的な研究開発事例についても紹介します。</p>
<p>ニュースポーツⅡ 【健康等】 (教授 縣 右門) (教授 村橋 毅)</p>	<p>ニュースポーツⅡはゴルフ実技となります。大学に近接するゴルフ練習場にて、フォームやスウィングなどを通して運動生理を実践で学びます。</p>
<p>スポーツマネジメント学 【生活・健康等】 (講師 松永修司)</p>	<p>本講義では、スポーツマネジメントの基本概念を学び、スポーツの社会的役割や国・自治体のプロモーションについて理解を深めます。健康増進や地域活性、経済効果などスポーツの多面的な価値を踏まえ、指導者として必要な知識と現場で活かせる実践力を養います。さらに、オリンピックやW杯など国際大会の商業化やメディア・スポンサーシップの役割、プロスポーツ経営についても学び、スポーツの持続的発展に貢献できる力を身につけます。</p>

<p>生体の構造と機能 【健康等】 (教授 前田智司)</p>	<p>人の体は多くの器官から構成され、それぞれの器官は固有の機能を発現する細胞とその集合体である組織から成り立っている。更に、人の体には、それぞれの器官や組織が互いに強調して生体の恒常性を維持する仕組み（ホメオスタシス）が備わっている。これらの人に体の構造とその機能を学ぶ事は、薬理学・薬物治療学・病態生理学等を理解する為の基本である。本講義では「人体を構成する器官」に引続き、各器官の構造・機能・調整の仕組みをマクロから分子細胞レベルにまで掘り下げて解説します。</p>
<p>有機化合物としての医薬品 I 【健康等】 (准教授 高山博之)</p>	<p>薬剤師は医薬品の専門家です。病気の治療に使われる医薬品もほとんどの場合有機化合物である為、医薬品を創製したり適切に使用したりする為には、有機化学を深く理解しなくてはなりません。医薬品において立体異性体間の薬理的および毒性学的作用に差異が問題になりました。有機化合物としての医薬品 I では立体化学について解説すると共に、アルカン・アルケン・アルキンの性質と反応について学びます。</p>